

Library Information

滋賀県立膳所高等学校図書館だより
2021 年度第 1 号 4 月 23 日発行

ともに生きる

今年も春がやってきました。桜の咲く時期が例年よりも早かったので、入学式の頃にはすでに盛りは過ぎていましたが、いつもの年のように新しい出会いの時を迎えることができました。昨年は休校や分散登校で、クラスでもなかなか全員が顔を合わせることができませんでしたが、今年は新年度の行事がほぼふだん通りにできたのでよかったと思います。

ウイルス感染が広がってから 1 年以上になりますが、そのあいだ人との接触をできるだけ避ける行動を求められてきました。通信によるやり取りが増えて、大学などにおいては昨年度の授業がほとんどオンラインだった学校もあります。現在も予断を許さない状況が続いていますが、このような環境の中で、うまく人と接触を図るのはなかなか難しい問題でした。

「ともに生きる」ことを意味する言葉に「共生」という語があります。主に生物が共存する場合に使われますが、生物学では「寄生」に近い意味で「共生」という場合もあります。また、様々な違う立場の人が共に生きる社会を共生社会と呼ぶ場合があります。この私たちにはわりと馴染みがある「共生」とは別な語を用いて、著名な科学者である清水博さんは、ともに生きることについて著書の中で次のように述べています。

出会いの場では、人々が我と汝として出会い、互いに自己を開いて交流し、再び別れていく。つまり場を決めている仮の枠はあるが場への出入りは自由である。出会いの場では、人々はともに生きる仲間として絶対的に対等である。心を開いてつき合うことができるのは、「ともに活かされている」ために「ともに生きている」ということを自覚するからである。出会いの場では、絶対的に対等だからこそ、異質の背景を持つ人々のあいだで共創がおこなわれる。『場の思想』（東京大学出版会）

「共創」は、広い意味で自分と他者が協力して新しい価値を作り出していくことを指しています。「出会いの場」があり、そこでのよい出会いがあつてこそ自分も相手も高められる。そのような出会いの場が学校であり、皆さんの学校生活であってほしいと思います。たくさんの学びや経験ができ、分かりあえる友人たちやよい書物との出会いがある。学校がそういう「場」であるように願っています。

コロナ禍においては、うまく繋がれないから逆に、繋がることがいかに大切なことかを自覚させられることにもなりました。昨年発表された米津玄師さんの楽曲に次のような歌詞があります。

いいよ あなたとなら いいよ 二度とこの場所には帰れないとしても

あなたとなら いいよ 歩いて行こう 最後まで 『カナリヤ』（STRAY SHEEP）

家族や恋人との心の繋がりの大切さがテーマの曲です。全体的に哀しい曲調ですが、希望を感じさせる表現です。学校でも対面で作られる関係性がいかに大事ものであるかということが、コロナ禍の状況でよく分かってきました。毎日学校に通うことはある意味で大変ですが、意義深い体験の積み重ねでもあるのだと思います。ぜひ一日一日を大切に過ごしてください。

自分の置かれた状況があまりにも苦しい場合には、必死に走らなくてもいいでしょう。時には自分のペースで歩くことも必要かもしれません。この学校で出会った、ともに学びともに生きる新しい仲間たちと力を合わせて、自分たちにしか作れない新しい価値を生み出していきましょう。

（宇田）

特集：新転任の先生方が薦めてくださる一冊

今年度新たに本校に赴任された先生方から本を紹介していただきました。本選びの参考にしてください。

〇〇 先生

『夜のピクニック』 恩田陸（新潮社、新潮文庫）

丸1日かけて80キロを歩くという、とある進学校の伝統行事「歩行祭」が舞台。ただ歩きながら会話しているだけの内容なのに、読み進めるうちに小説の世界にどんどん引き込まれます。自分も一緒に歩行祭に参加しているような感覚になってきます。

第二回本屋大賞を受賞したベストセラーで、「みんなで夜歩く。ただそれだけのことが、どうしてこんなに特別なんだろう」というキャッチコピーで映画化もされているので、読んだ人も多いかもしれませんが、何度でも読み返したくなり、読むたびごとに新たな感慨を覚える小説です。

文芸評論家・池上冬樹氏いわく「懐かしくて、切なくて、嬉しくて、もう最初から最後までわくわくしてしまう。生きてあることが嬉しくて、だれかに感謝したくなるような高揚感がひしひしとわきあがってくる。読む者の胸を幸福感で一杯にするような小説」です。読了後には心地よい余韻が残ります。

〇〇 先生〔国語〕

『そして、バトンは渡された』 瀬尾まいこ（文藝春秋）

主人公の優子は3人の父親と2人の母親をもち、高校3年生になるまでに名字も家族の形も様々に変化します。傍から見ると親から親へたらい回しにされ、可哀想な子だと思えるかもしれません。しかし優子はそれぞれの形で愛情を注がれ、友情や恋、就職などに悩みながら普通の女の子として成長していきます。「バトン」のように様々な親の元を渡った優子、そして優子を落とさないように大切に運んだそれぞれの親達の姿を見ると、血の繋がりがだけが家族ではないことを感じさせます。特に大きな展開はなく物語は進みますが、読み終わった後は登場人物達の優しい気持ちに触れ、心が温かくなる一冊です。ぜひ読んでみてください。

〇〇 先生〔社会〕

『教養としての「世界史」の読み方』 本村凌二（PHP 研究所）

「経験と歴史が教えてくれるのは、民衆や政府が歴史からなにかを学ぶといったことは一度たりともなく、また歴史からひきだされた教訓にしたがって行動したことなどまったくない、ということです」

この言葉はこの本の序章で紹介されていて、ドイツの哲学者・ヘーゲルの『歴史哲学講義』からの引用です。なかなか強烈ですが、「歴史を学ぶ」ということは結局どういうことなのか、考えさせられる言葉でもあります。歴史的な事実を丸暗記するだけでは、歴史を学んだことにはならない。歴史を学ぶとはどういうことか、考えてみてほしいと思います。

〇〇 先生 [社会]

『隠された十字架』 梅原猛 (新潮社)

法隆寺は聖徳太子が建てた寺院ではないとすれば？「隠された十字架」は、哲学者の梅原猛氏が論じた歴史学的な評論です。

梅原氏は、「法隆寺は聖徳太子の怨霊を鎮めるために建てられた」と主張します。この本では、その仮説の根拠となる証拠を古典や史料などから述べています。

内容的には、聖徳太子は「たたり神」となったのだと主張します。「たたり神」になる条件として、①政治的な敗者であること、②時の権力者は自己の安泰のため、崇りの霊を厚く葬る、③良い名前をその霊に送る、ということを挙げています。法隆寺の建築自体にも普通には見られない様式が数多く見られます。

この本は、50年くらい前に出版された本ですが、私が学生時代に読んで歴史の面白さがもっと奥深く感じた本です。常識とされることを疑ってみることも新しいものを生み出すためには必要なことだと感じられた一冊です。

〇〇 先生 [数学]

『ぼくと数学の旅に出よう』 ミカエル・ロネー 訳：山本知子、川口明百美 (NHK 出版)

皆さんは数学が好きですか？数学というワードを聞くと、「難しい。」「何の役に立っているのか。」など数学を学ぶ意味やそれ自体の存在に疑問を持つ人がいるかもしれません。この『ぼくと数学の旅に出よう』という本はそのタイトルにもあるように様々な時代、様々な土地へ旅をしているような感覚で数学に触れ合うことができます。数ってどうやってできたのか、数学の決まりごとはどうやってできてきたのか、身の周りに実は存在している数学など様々な内容が取り扱われています。難しい数学は出てこないのでも数学が苦手な人にも読みやすくなっています。この本を読むことで数学の授業が楽しくなったり、身近にある数学に気付けるようになるかもしれません。ぜひ一度軽い旅気分です手に取ってみてください。

〇〇 先生 [数学]

『高校生が感動した確率・統計の授業』 山本俊郎 (PHP 新書)

私たちは小さい時からじゃんけんやすごろく等で確率に触れていますが、いざ数学の単元として学ぶとなると苦手な方が多いです（私も苦手でした）。本書では、簡単かつユニークな例題を用いながら確率における考え方や計算方法について分かりやすく述べられています。また、「場合の数」や「確率」の根本的な考え方にも触れられています。数学な得意な方もそうでない方も是非一度読んでみてください。数学の新たな扉が開くかもしれませんよ。

〇〇 先生〔保健体育〕

『スマホ脳』 アンデシュ・ハンセン 訳：久山葉子（新潮新書）

日々、進化するデジタルデバイス。スマホが脳にどのような影響を及ぼすのか。集中力の大切さや SNS の使い方など考えさせられる一冊です。現代をどう生きていくのか、生活習慣も含めて考えてみてください。また将来、子どもができたとしたら、あなたならどうしますか？iPad の生みの親である スティーブ・ジョブズは自分の子どもの iPad 使用時間を厳しく制限していたそうです。便利な世の中ですが、昔の人はどのように対処していたのでしょうか。考えることが大事です。

〇〇 先生〔英語〕

『優しい死神の飼い方』 知念実希人（光文社文庫）

死神が犬の体に移り、ホスピスの患者さんの未練を解き放っていく話です。

元々プライドの高い死神だったのですが、移った先が犬の体だったために、自分の意志と関係なく好物のシュークリームを見たらよだれを流してしまうとか、思わず尻尾を振ってしまうなどその変わりようがとてもかわいらしく、犬好きにはたまらない作品です。また犬の姿で様々な人の世の中への未練を解決し、魂を成仏させていく展開がとても心温まるものになっています。ほっと一息をつきたい人におすすめです。